

第17回 規制改革推進会議終了後記者会見 議事概要

1. 日時 : 令和5年10月16日(月) 16:23~16:33
2. 場所 : 合同庁舎8号館1階S106会見室
3. 出席者 :
(委員) 富田哲郎議長
(政府) 河野大臣

○事務局 それでは、時間前でありますけれども、皆さんおそろいだと思しますので、規制改革推進会議(第17回)終了後の会見を始めさせていただきたいと思ひます。大臣日程の関係で50分が最後の時間となりますので、よろしくお願ひいたします。

まず、会見の冒頭で大臣の御発言をお願ひいたします。

○河野大臣 お疲れさまでございます。ここで会見をやるとワクチンを思い出しますが、今日は規制改革推進会議の新体制が発足いたしまして、初回の会合を行いました。会議の構成員は、お手元に資料をお配りしていると思ひますが、役職を省略してお名前のみ読み上げさせていただきます。

あいうえお順で、芦澤美智子、落合孝文、川邊健太郎、佐藤主光、杉本純子、津川友介、富田哲郎、富山和彦、中室牧子、林いづみ、堀天子、間下直晃、御手洗瑞子、山田義仁。以上が委員に任命されまして、今日の会議で、互選で富田会長が議長に選出され、富山会長と林弁護士が議長代理に指名をいただきました。議長のリーダーシップの下、悪しき前例主義を打破し、国民の皆様が、この人口が減少し、高齢化が進んでいる中であっても豊かで便利な生活を送ることができる社会をつくってまいりたいと思ひます。しっかりと議論をお願ひしたいと思います。

また、今度のデジタル行財政改革推進会議の中で規制改革、それから行革、財政改革をまとめてカバーすることになりましたので、横串をいろいろな意味で通しながら改革を進めてまいりたいと思ひます。

私からは以上でございます。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、議長に選出されました富田議長からお願ひいたします。

○富田議長 富田でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。座って失礼します。

先ほど岸田総理、河野大臣に御出席いただきまして、新体制における初回の規制改革推進会議を開催いたしました。議長につきまして、委員の方々から互選によりまして私を選任し

ていただきました。微力だと思いますけれども、委員の方々のお力添えもいただきながら、力いっぱいやってまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

まず、議長代理としては富山委員と林委員の2人をお願いすることといたしました。

それから、本日の会議の内容でございますけれども、非常に活発な意見が初回から交換されました。詳しくは後ほど事務方に御確認いただきたいと思いますが、委員の方々に共通する問題意識としては大きく2つの観点があったのではないかと思います。

1つは、人口減少下における人材不足、そしてそれに対応するための新しいデジタル技術を中心とした技術の活用といった課題でございます。申し上げるまでもなく、既に地域交通や医療の問題、あるいは介護、建設、観光、ホテル、あるいは農業といった多くの分野で人材難が深刻化しております。今後、さらに生産年齢人口が減少するということになりますと、今の社会構造といいますか、豊かな日本の社会を維持できるのかという強烈な危機感を皆さんお持ちだったと感じました。

それから、2つ目の点としては、いわゆる規制改革のスピード感の問題だと思います。諸外国ではもう当たり前になっているような自動運転の問題などといった問題がなかなか日本では提供できていないという現実があるという指摘がありました。規制改革、あるいは制度改革を急ぐ必要があるということだと思います。

総理からも、先送りできない社会課題に正面から取り組んでほしい、そしてその社会課題を乗り越えて、その変化を新しい日本をつくっていく成長力にしたいのだという姿勢で臨んでほしいというお話がありました。私も全く同感でございます。

私自身からも2点ほど発言をさせていただきました。私自身の問題意識としては、特にいわゆる働き方改革について、これまでの考え方を少し変えていく時期に来ているのではないかと。具体的に言えば、日本人の持っている様々な力をもっと引き出して生かせる働き方改革が必要ではないか。意欲に応じて自由に働けるといった視点が必要なのではないかと。副業・兼業の問題などを推進する時期に来ているのではないかとというお話を申し上げました。また、GX・DXを中心とするいわゆる国内投資をどうやって増やして加速していくのか、それに向けた課題の解決といった問題意識を述べたところであります。

今期の会議には、これまでに革新的な商品・サービスに関する事業やその支援に挑まれてきた方々、あるいは海外の状況に明るい方々が委員として任命されております。今後、議長としまして、富山さん、あるいは林さん両議長代理、それから委員の方々とともにタッグを組んで、力を合わせて、そしてスピードを意識して議論を進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

冒頭は以上でございます。

○事務局 それでは、御質問に移りたいと思いますが、いかがでしょうか。御質問のある方は挙手をお願いします。

○記者 大臣にお伺いしたいのですが、規制改革推進会議はデジタル行財政改革会議の傘下に入っていますが、今回の検討議題を見ると、デジタルに関わるものと、デジタルにかかわらない例えば自爆営業などの対策と、両方入っていますが、この辺はどうやって整理して議論していくのでしょうか。

○河野大臣 この会議でどのように取り運ぶかは、議長、議長代理、それからワーキングの座長にお任せいたしますが、デジタルを使って世の中を便利にできるものについてはどんどん進めていかなければなりませんし、この規制改革というのはそもそもデジタルが関わっている・関わっていないにかかわらず改革が必要なものが山積みでございますので、そこはあまり線引きをせずにとんどんやっていたきたいと思えます。

○事務局 ほかはいかがでしょうか。

どうぞ。

○記者 河野大臣にお伺いします。

先ほどもありましたデジタル行財政改革会議ができた中で、先ほど富田議長からもスピード感を持って取り組むというお話がありましたけれども、大きなドームがかかった中でこれまでとスピード感をどう変えていきたいと大臣御自身はお考えでしょうか。

○河野大臣 規制改革は、例えば毎年6月に様々な閣議決定をして、そこを目指してということがありましたけれども、それにとらわれずにできるものはどんどんとやって実施していきたいと思っております。

○記者 それともう一点、今月取りまとめる経済対策のところも今日の議題の中で緊急に対応すべき課題というのが入っていると思えますけれども、これにはどう対応されていきますか。

○河野大臣 経済対策の中に盛り込めるようなものは、それに必要なスピード感でやっていきたいと思えます。

○事務局 ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、終了させていただきます。細かいことは事務方にどうぞお問い合わせください。ありがとうございました。